

令和5年度 江戸川区立篠崎第小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	「か、がやけ篠三つ子」 かながえる子(重点目標) がんばる子 やさしい子 けんこうな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	学校像:児童中心に学校・教師・地域が手を携えて教育活動に邁進できる学校。 児童像:かながえる子、がんばる子、やさしい子、けんこうな子 教師像:教師力向上のために努力できる教員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>確かな学力の定着に向け、確かな学力向上推進プランに基づいた授業を行い、補習等個に応じた指導を継続してきたことで、学力向上に向けての基礎作りができた。また、生活面では、豊かな心づくりの取組を行い、学校全体として、児童は落ち着いて学校生活を送ることができた。</p> <p><課題>学力調査の結果は、徐々に向上しているが、都や全国の平均と比べると依然低い状況であった。また、生活指導面では、個別の支援が必要な児童について組織的に対応していくことが必要である。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	結果と課題	評価		コメント
学力の向上	<誰一人取り残さないための学力向上> ・「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」に基づいた指導の実践 ・補習の実施による基礎・基本の定着 ・教員の授業力向上	○誰一人取り残さないための学力向上アクションプランに基づいた年間指導計画や個別指導計画に基づいた、系統性のある指導を実践 ○学力向上担当教師を中心とした組織的な学力向上の取組を実施(学力向上委員会) ・毎学期2回の東京ベネッセドリル診断テストの実施。結果を分析し正答率が低いところを補習で強化 ・補習・放課後学習教室の実施 ・家庭学習週間における、ドリルパークの活用、家庭での学習習慣の定着 ・朝学習でのドリルパークの活用 ○教員の授業力向上を図る研究・研修の実施	○東京ベネッセドリル診断テスト7割達成者を70%以上(令和8年度までに) *R5 1学期7割達成者55.6% ○全国学力調査において、「授業時間以外の勉強時間」が1時間以上の割合90%以上(令和8年度までに) *昨年度は41.1% ○学級担任による年35回以上の補習の実施 ○学力格差解消担当教員による週4日の補習 ○外部講師による週5日の補習 ○年間3回の家庭学習週間の実施 ○教員への年間3回のICT研修の実施 ○児童への年間6回のICT補習の実施 ○年間4回の校内研究授業実施	A	A	○東京ベネッセドリル診断テストを1学期に2度行ったが、7割達成者が55.6%→65%と約10%増えた。学期に2度行い、正答率が低いところを強化することで、定着を図ることができるので、今後も続けていく。傾向として、図形や俗、文章題の正答率が低い。 ○全国学力調査において、「授業時間以外の勉強時間」が1時間以上の割合は昨年度41.1%→50%と上昇した。しかし都の割合は63.6%、全国の割合は57.1%で、都や全国と比べると本校児童の勉強時間は少ないことが分かる。 今年度より家庭学習週間を使用する表に時間の項目を増やし、時間への意識をもたせるとした。また家庭学習週間の取組の報告として、平均時間や児童の傾向を伝える保護者への啓発資料を作成した。学年でもある程度時間がかかる宿題量をだすようしている。今後も引き続き学力向上に向けての取組を実施していく。 ○担任や学力格差解消担当教員、外部講師による補習は予定通り実施できている。	B	○「誰一人残さない」の考えは義務教育において素晴らしいが、学習が苦手な子に合わせ停滞することは好ましくない。得意な子より伸ばしていく仕組みは必要だと思う。子供同士で教え合うことで、教える側も教わる側も子供自身の理解が深まる。 ○まずは国語力の向上だと思う。国語力が向上することで、算数の文章題など問題の理解が進むと思う。 ○教員の授業力向上には必要だと思う。これは教員だけではなく全ての仕事に言えること。教員は児童に寄り添い、教えるスキル向上に時間を使うべきだと思う。篠三小の先生は、一生懸命で人情熱く、明るく元気な印象。とても素晴らしいと思う。 ○本校児童の勉強時間について知り驚いた。時間が全てではないが、毎日の積み重ねが大切だと感じた。	○今年度、「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」に基づき、今までの取組を発展させた組織的な取組を行っている。1学期という短い期間ではあるが、成果が数字にも表れている。今後も引き続き取り組んでいく。 ○今年度の本校の校内研究の主題は「自ら考え、学び合う児童の育成 ～伝え合うことが好きになる言語活動の工夫～」である。主題に迫る手立てを日常の授業から考えPDCAサイクルに基づいた授業改善を行っている。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	○一人一台端末と図書館の蔵書を併用した主体的な学習活動の実施 ○読書科の充実 ○朝読書の実施 ○学校司書を中心とした学校図書館の整備 ○学校応援団である図書ボランティアによる読み聞かせ・おはなし会・図書館整備・学級文庫の整備	○各教科や総合的な学習の時間等において、週に2時間程度一人一台端末と図書館の蔵書を併用した主体的な学習活動の実施 ○読書科担当教員を中心とした読書科の充実、6月学校公開での全学級読書科公開 ○週に2度の朝読書の実施 ○月に1度の学校司書を中心とした学校図書館の整備 ○学校応援団である図書ボランティアによる読み聞かせ・週に1度の図書館整備・学級文庫の整備	B	B	○年間35時間、読書科のねらいに迫る内容の授業を行っている。 ○図書ボランティアによる読み聞かせを毎週実施し、本に親しむことができた。 ○学校図書館はいつも整理されている。	B	○図書ボランティアはよく活動をしている。PTAも多くの予算をかけ、本の購入や活動を行っている。今後もPTAとの連携を図っていく。 ○学校公開での6年生と1年生、5年生と2年生の読書科の授業はどれも良かった。高学年の、低学年を思いやり読むスピードや本の向きを工夫している様子、表情豊かに読む様子、クイズを出す様子を見て嬉しくなった。 ○学校と図書ボランティアの読ませたい本の違いを感じ、司書と意見交換し連携を図っていく。	○読書科コンクールや調べる学習コンクールへの参加、6年生と1年生、5年生と2年生の読み聞かせ等、活動の充実を図る。
体力の向上	<運動意欲の向上>に向けた取組の実施・充実	○体育学習の充実 ○体力の向上 ○運動遊びの実施 ○教員の研修の実施(体育実技研修)	○運動量を確保し、活動内容・活動場所を配慮した体育学習を実施 ○「体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果」を分析し、運動遊びの内容を生かす。 ○休み時間を活用した週1回の運動遊びの実施 ○体育実技研修を年に4回実施	B	A	○運動量を確保し、活動内容・活動場所を配慮した体育学習を実施することができた。水泳指導は学年単位で実施。また夏季水泳指導も6日実施した。 ○今年度より週1度の運動遊びを実施した。 ○休み時間を活用した週1回の運動遊びの実施 ○体育実技研修を行った。 ○体力テストは全種目実施することができた。ハッピーフレンズのグループを活かし、異学年で実施	A	○水泳学習や運動遊びなどしっかり行うことができている。ここ数年で体力が落ちていると感じているので、しっかりと身体を動かす取組を行っている。 ○アフターコロナでどのような形にしていこうか、担当で話し合いを重ねての提案・運営だった。行事ごとの教員の反省をしっかりととり、次年度に向けてより良い提案ができるようにしていく。	
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・特別支援学級との日常的な交流 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・副籍交流、及び共同学習の充実 ・エンカレッジルームの活用促進	○はこべ学級との連携 ○個別指導計画と個別の教育支援計画に基づいた指導の実施 ○鹿本学園児童との交流 ○特別支援校内委員会の開催 ○特別支援教室 巡回指導教員による校内研修の実施	○通常学級とははこべ学級の交流授業 ○行事での連携(学年とはこべ学級で合同) ○年に1回程度の副籍交流(読み聞かせ)の実施 ○月1回以上の開催。特別支援教室専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等も参加 ○年に3回、教員への研修の実施	A	A	○実施に合った交流学習、体育学習発表会での合同練習や発表を行うことができた。 ○特別支援校内委員会は月1回以上開催した。特別支援教育専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等も参加し連携を図ることができた。 ○研修は10月20日に実施予定。 ○副籍交流は、読み聞かせの他、外国語活動も実施することができた。今後も保護者や学校とも相談しながら活動を実施していく。	A	○通常学級とはこべ学級との交流は素晴らしい。文字や音声での交流ではなく、肌感で交流していることは何よりの財産だと思う。お互いの価値観やモラルを考えることができると思う。	○今後も児童の実態に合った交流学習や行事での関わりを実践していく。 ○副籍交流は、読み聞かせの他、外国語活動も実施することができた。今後も保護者や学校とも相談しながら活動を実施していく。
子供たちの健全育成	<子供たちの健全育成に向けた取組> ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	○より良い学習・生活習慣の育成 ○保護者との連携(会話、連絡帳等) ○生活リズムカードの実践と分析 ○道徳教育の充実 ○ハイパーQUの実施 ○江戸川区子ども権利条例の理解	○学校全体で称賞や励ましの指導を実施 ○学期に1回実施。家庭との連携の下、児童が自分で良い生活習慣を選び、行動する力を養う。 ○1学期にハイパーQUを実施。結果を学年・学級で分析。2学期からの指導に生かす。	B	B	○児童の送迎時の会話や連絡帳、生活リズムカードの取組等、学習面、生活面で保護者との連携を図ることができた。 ○今後、ハイパーQUを活用した児童理解に努め、江戸川区子ども権利条例を踏まえた子供たちの健全育成に努めていく。	B	○今後も継続してほしい。	○今後も家庭と連携をとりながら、子供たちの心身の健全育成を図っていく。
	<いじめ、不登校の未然防止・早期対応に向けた取組の充実>	○生活指導夕会における情報の共有 ○生活指導全体会における情報の共有 ○いじめ対策委員会・不登校対策委員会の開催	○週に1度の実施 ○学期に1回の実施 ○月に1回以上の実施 特別支援教室専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等も参加。学級・学年からの情報をこども委員会が把握し、対策委員会を開催。組織的な対応を行う。	B	B	○生活指導夕会、全体会等、定期的に行い情報共有を図り組織的に対応できている。 ○いじめ対策委員会・不登校対策委員会では、関係機関と連携を図ることができた。 ○関係機関との連携により、以前より状況の改善が見られた。	B	○今後も継続してほしい。 ○学校、保護者、地域、PTAが一体になりコミュニケーションをとることが大切だと思う。 ○記録をしっかりと残し学年が変わっても情報を引き継いでいく。	
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	○年4回の学校公開の実施、学校説明会の実施 ○年1回・保護者・教員の学校評価実施 ○行事後の保護者アンケート実施	学校の様子を知ってもらうために ○1週間に1回程度HP更新 ○月に1度の学校だより、学年だよりの配布。HP更新 ○年4回の学校公開の実施、学校説明会の実施 ○年1回・保護者・教員の学校評価実施 ○行事後の保護者アンケート実施	B	B	○今年度より学校公開は人数・時間制限なしに行っている。父母だけでなく、祖父母の方にも子供たちの様子を見ていただけている。 ○行事後のアンケートを実施し、ご意見を今後活かしていく。	B	○数年ぶりに、学校評議員、民生児童委員等、地域も参観できるようになり嬉しく思う。学校だけでなく、地域も保護者と協力していきたい。 ○学校日記で活動の様子がわかるので良い。掲載ボリュームも良い。	
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	○年3回の学校評議員会の開催 ○学校関係者評価の実施・改善 ○年1回・保護者・教員の学校評価実施	B	B	○6月に学校評議員会を設け、学校評議員の方からのご意見を伺い、また児童の授業の様子を参観していただいた。今後の学校運営に生かしている。	B	○子供たちの様子を様子をみることで良くなった。いろいろな活動を先生方が工夫しながら行っていることが分かった。	○今後もご意見を伺い次年度の学校運営に生かす。
	<地域と連携した学習活動・体験活動の充実> ・篠田堀親水緑道・江戸川の自然、生き物、歴史、環境を題材にした学習活動 ・地域と連携した職場体験活動の充実 ・学校	○6年生による篠田堀ボランティア清掃活動 ○6年生による職場体験(地域との連携) ○5年生による工場見学(王子マテリア) ○4年生によるポッチャ・ブランドサッカー体験(江戸川区スポーツ課) ○3年生による篠田堀調べ学習(外部講師:子ども未来館) ○3年生による小松菜農家見学 ○1、2年生による地域巡り ○はこべ学級による校外学習(ポニーランド) ○学校応援団との連携	○年1回以上の実施 学習したこと、そこから生まれた疑問や分かったことをまとめ、学級や学年、異学年児童に向けて発表する活動を実施	B	A	○予定通り実施することができた。カヌー教室やスケート教室等も実施できることになり、活動がより充実している。 ○学校応援団については、新旧コーディネーターやPTA会長、副会長と、今までの活動や今後について共通理解を図った。関係者との連携を図り、学校応援団の活動の充実を図る。 ○次年度は篠田堀30周年の記念の年となる。地域全体で盛り上げていきたい。	A	○机上の学習も大切だが、地域を活かした体験的な学習も児童にとって必要だと思う。今後も協力できることがあれば協力したい。 ○6年生の職場体験学習が4年ぶりに実施と聞き、嬉しく思う。コロナで活動が縮小していた学校応援団の活動を徐々に広げ、体験学習のお手伝い等充実させていきたい。 ○次年度は篠田堀30周年の記念の年となる。地域全体で盛り上げていきたい。	○今後も地域との連携を図った教育活動を実践していく。 ○次年度は自治会の長の方たちとの集まりを企画し、学校公開を参観していただいたり、学校応援団への協力を依頼したり等、より一層の連携を図る。
特色ある教育の展開	<「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施>	○校務分掌組織の改善 ○会議の精選 ○C4thの連絡掲示板やTeamsの活用 ○SSSや副校長補佐の活用と連携 ○SSWや児童相談所との連携	○会議時間の縮減 授業準備の時間を確保 ○プレミアムDayの設定と実施(学区見守り、定時退勤日) ○月残業80時間の教員をゼロへ。	B	A	○校務分掌組織の改善や会議の精選、連絡掲示板やTeamsの活用、人材の活用により、令和4年度は令和3年度より教員の平均在職時間を42分減らすことができた。また、令和5年度も引き続き取組を実施しており、平均在職時間は昨年度より減っている。教員によって偏りが見られるので、次年度に向けて原因を分析していく。(分掌の偏り等)	B	○具体的な取組や数値目標を見ながら話を聞いていると、先生たちの仕事量の多さや大変さを感じる。学校だけの取組だけでなく、江戸川区として、学校への負担を減らすためには、考えていく必要があるのでは。	○今後も、「学校における働き方プラン」に基づき、取組を実施していく。
	<異学年集団での活動の充実> ・縦割り班での交流遊び(ハッピーフレンズ)の設定 ・篠三まつり ・クラブ活動・委員会活動	○6年生が計画を立て異学年で工夫した遊びを楽しむ活動 ○ハッピーフレンズでの体力テストの実施 ○登校班会議での顔合わせと登校班での登校 ○篠三まつり 各学級でのお店の運営・交流 ○クラブ活動における、4・5・6年生による異学年交流活	○年4回の活動 ○6月の実施 ○4月・10月・3月に実施 ○9月の実施 ○クラブ活動は年11回の実施	B	B	○1学期には登校班、縦割り班、クラブ活動、委員会活動を予定通り実施することができた。	A	○異学年交流は篠三小の特色だと思う。今後も続けてほしい。 ○異学年と交流することで、コミュニケーション、チームワーク、対人能力が向上すると思う。	○今後も異学年交流を充実させていく。コロナ前に戻すのではなく、今の状況に合った計画を立て実施していく。(ハッピーフレンズ・篠三まつりなど)